

府中市の概要

府中市は、東京都のほぼ中心に位置し、東京都庁がある新宿から西方約22kmの距離にあります。市の中心地にはショッピング施設や映画館があるほか、多摩川や浅間山、多数の公園があるなど、自然も豊かなまちです。

府中市は、645年に武蔵国の国府が置かれ、早くから政治、経済、文化の中心地として栄えてきました。鎌倉時代末期は合戦の舞台となり、江戸時代には甲州街道の宿場町として栄え、明治以降は郡役所の所在地としてのにぎわいをみせてきました。1954(昭和29)年4月、府中町、多磨村及び西府村の1町2村が合併し、府中市が発足しました。

市内には、市のシンボルである国指定天然記念物の馬場大門のケヤキ並木と大國魂神社などがあり、東京で有名な祭りのひとつであるくらやみ祭が毎年行われます。また、東京2020オリンピックの直前には卓球オーストリア代表の事前キャンプを受け入れました。



● 府中市の市章

府中の「ふ」と「中」を組み合わせて、市民相互のまどかな結びつきを表現しています。中央には、多摩川の清流をかたどり、市の将来の永遠なる発展を象徴しています。

府中市

- 人口
260,253 人 (2022年1月1日現在)
- 面積
29.43 km²
- 市制施行
1954年4月1日
- 施設間友好協定
府中市立本宿小学校
府中市立府中第九中学校
府中市立図書館
府中市生涯学習センター

ヘルナルス区の概要



● ヘルナルス区の紋章

紋章には、合併前の3村の要素が含まれています。

- ①ブドウ(上):ヘルナルスの経済基盤であるブドウ栽培を象徴しています。
- ②2つの交差した教会の鍵(左下):ドルンバッハを開拓したザルトツブルクの聖ペテロのベネディクト会修道院のシンボルを示しています。
- ③建物(右下):カールス教会も造った建築家(ヨハン・ベルンハント・フィシャー・フォン・エルラッハ)が建てたノイヴァルデック城を示しています。

ヘルナルス区

- 人口
56,014 人 (2022年1月1日現在)
- 面積
11.35 km²
- 区制施行
1892年1月1日
- 施設間友好協定
ハリルシュガッセ小学校
ゲブラーガッセ・ギムナジウム
ヘルナルス区図書館
ヘルナルス区成人学校

オーストリアの首都ウィーンには23の区があります。街の中心である旧市街・1区から見ると、17区のヘルナルスは北西に位置しており、そのほとんどが緑の多い住宅地です。東側には主にアパート・マンション、商業地区、区役所があり、西側には小さな住宅地とブドウ畑が広がっています。この地域は、緑豊かなウィーンの森へと続いており、公園も含めると区面積の40%を占めています。

歴史的には、ヘルナルス区は、ウィーン近郊の3つの村＝ヘルナルス、ドルンバッハ、ノイヴァルデックから形成されており、その特徴は、多くの商工業とブドウ栽培にあります。また、19世紀からホイリゲと呼ばれるワイン酒場を中心に演奏されてきたシュランメル音楽発祥の地でもあります。1892年、この3つの村が合併して17区となり、ヘルナルス区が誕生しました。

区の名所は、区役所のあるエルタライン広場のシュランメル四重奏噴水、カルヴァリアンベルク教会、ヘルナルス駅＝アールヌーボー様式の都市計画家として有名なオットー・ワグナーが手がけた建築物、ウィーンの森の一角であるシュヴァルツェンベルク並木道などです。

